

平成22年度学校評価表(中間評価)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

評点 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない
2: やや不十分 1: 不十分

* 「評価項目」の() 数字は、重点目標の項目番号

領域	対象	評価項目	評価の観点	中間評価(成果と課題)	評点	具体的な改善策・向上策	
教育活動	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラムの研究・検討を行い、コース制の改善を図っているか。	3年次選択科目を改善した。	4	生徒の希望が通るように講座を調整する。	
			学習指導要領改訂に伴う教育課程の研究・検討を行っているか	検討中である。	3	将来像についても検討を深める。	
	学習指導	(1) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、工夫された教材作成に取り組んでいるか。	講座別授業では、個別指導で一定の効果をあげているが、クラス別授業では、個々の指導まで手が回らない状況もある。	4	授業マナーの改善を促しながら、一斉指導と個別指導のバランスを取り、繰り返し基礎の定着に取り組んでいく。	
			習熟度別授業や個別指導の充実	生徒の要望や理解度を把握し、習熟度別授業、個別指導の充実を図っているか。	4	授業への意欲を高める指導を行いたい。また、授業だけでなく、補習や個別の課題等も取り入れていく。	
			授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業改善に努めているか。	定期考査等の結果を踏まえて、教科ごとに生徒の理解度・定着度を把握して向上に努めている。	3	授業アンケートを2学期後半に行い、生徒の授業に対する意識や関心の度合いを把握し、さらに向上に努める。
	進路指導	(2) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた適切な進路情報の提供がなされているか。	係会・学年会を通じて、情報提供している。個別には進路室で係が面談等をして対応している。	3	1,2年次より学年会等で定期的に進路に関する情報交換をする機会を設定していく。	
			進路希望の実現と職業理解の促進	キャリアガイダンスや職場体験をとおして、職業理解の促進を図っているか。	進路体験報告会・進路ガイダンスを実施し意識の向上を図っている。職場体験の機会が少ないのが課題である。	3	HRや総合学習の時間を利用して、キャリア教育を推進する計画を立てていく必要がある。
	生徒指導	(3) 基本的な生活習慣の確立	全職員が一致して生徒の指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守が定着したか。	5月より、空き時間の校外の見回り・放課後4時台の電車に合わせた駅周辺の見回りを行ってきた。	3	引き続き、問題行動を未然に防ぐよう、見回りを継続していきたい。	
			生徒相談体制の充実	多様な悩みを持つ生徒の状況を把握し、適切な支援を図っているか。	職員研修会を2回行い発達障害の理解を深めた。また、個別のケースに対応してきた。	3	第3回研修会も開催、月例カウンセリングの設定。引き続き状況に応じた相談を行っていきたい。
			メディアリテラシーの習得	携帯電話やIT利用の、ルールやマナーの遵守が定着できたか。	ホームルームを通して注意喚起を行っているが、一部の生徒にマナー違反が見られる。	3	引き続き注意を促していきたい。
クラブ会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。	行事・日常活動で執行部の生徒を中心に、これまで以上に自主的に活動をする姿勢が育ってきている。	4	旧役員が一年間の活動のまとめと引継ぎをきちんとできるように見守り、新役員がスムーズに活動を始められるようにアドバイスしていく。		
学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	各行事実施後にアンケートをとり、教育活動改善に努めている。中間評価の実施。	4	さらに、生徒の授業アンケートの活用などで、評価活動を充実させていく。	
			情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的に公開・提供をしているか。	行事実施の予定や、実施後の様子など常に新しい情報の発信に努めている。	4	HP以外の情報の発信を工夫していく余地がある。
	地域連携	(1) 地域の声を教育活動に生かす	創立100周年記念事業と生徒の教育活動が連携されたか。	総合的な学習の時間や記念式典の準備、文化祭シンポジウム等で連携した活動が行われた。	4	同窓会と連携し、さらに連携した教育活動を模索していく。	
			教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	総合的な学習の時間、進路講話、福祉体験活動などで社会人講師の活用が行われた。	3	大学や企業等との連携を模索していくことが課題となる。
	校内研修	(1) 授業・学習指導法の改善	改善を図るための、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	9/22に専門家による発達障害に関する研修を行った。6/14～6/18に職員向けの公開授業を行ったが参加人数が少なく十分でなかった。	3	多忙の中、十分な研修が行える状況にないのが現状であるが、どのような形で実施するのがよいのか研究する必要がある。	
			生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びついているか。	生徒の目線に立つ努力をしているが、悩みが十分に伝わってきていないところがある。	3	方法として、無記名アンケートを実施を計画し、生徒から出てきた問題を個別に検討・解決していく。